

**JR PROPO**  
PROFESSIONAL RADIO CONTROL SYSTEM

# RG411BL (パーフライト用)

DMSS2.4GHz RECEIVER SYSTEM  
with TELEMETORY & XBus

## 取扱説明書

このたびは、JR 製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。  
本製品を正しく安全にご使用いただくためにも、取扱説明書を必ずお読みください。

※DMSS方式製品はDSMJ方式製品との互換性はありません。

### 特徴

- DMSS方式により、混変調、相互変調妨害を受けにくい高感度受信機。
- 機体のバッテリー残量などの情報をフィードバック可能なテレメトリーシステム搭載。
- LEDの点灯により受信状況を確認可能。
- 送信機でのフェイルセーフ設定に対応。
- イーザーバインド機能搭載(バインドプラグ不要)

### 構成

- RG411BL / 受信機本体 ● 取扱説明書 (本書)

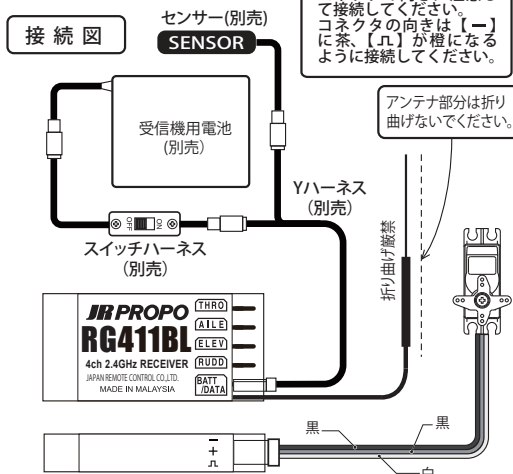
受信機規格	
品番	RG411BL
受信方式	DMSS 4チャンネル方式
重量	4.3g
寸法	35.5×18×9mm
定格電圧	4.8-7.4V
動作電圧	4.5-8.5V
備考	スリーブアンテナタイプ (アンテナ/同軸) 30/115mm

### センサーの接続について

センサーを接続するには [BATT・DATA]端子にYハーネス(別売)を接続してください。  
※センサーをバインドする必要はありません。

### ハーネスの接続について

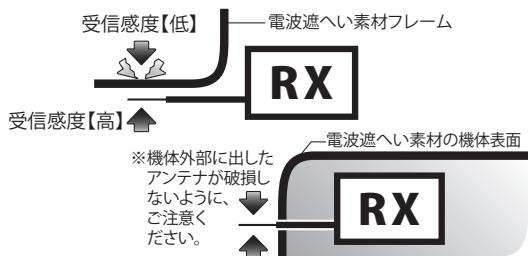
コネクタの向きに注意して接続してください。コネクタの向きは「-」に赤、「+」が橙になるように接続してください。



## アンテナの設置について

カーボンや金属などの遮へい素材に直接アンテナを貼り付けた場合、設置した面の受信感度は著しく低下します。  
同素材に設置する際は、できる限りアンテナを素材から離すか、機体自体が電波遮へい素材の場合は、アンテナを外に出すようにしてください。

**⊘ アンテナ部折り曲げ厳禁**  
先端のアンテナ部分(60mm)は真直ぐな状態で設置してください。折り曲げてしまうと、安定した受信ができなくなります。



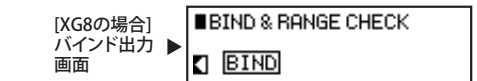
## バインド設定方法

■送信機と通信を行うためには、必ずバインド(ペアリング)をしなくてはなりません。ここではバインドの設定方法を説明します。

- はじめに、「満充電されたバッテリー」を用意します。上の「接続図」を参考に受信機とバッテリーを接続します。
- 送信機のシステム設定モード内にある [BIND] の設定画面を表示します。[BIND] にカーソルを合わせダイヤルを押しバインドモードにします。 ※下図は「XG8」の表示画面です。

- 2の状態を受信機をONにすると数秒後にバインドを開始しLEDが点滅をはじめます。LEDの点滅が点灯になったらバインド完了です。

- 実際にサーボを動かし、バインドできていることをご確認ください。なお、距離テストを行う場合は、送信機の発信出力を下げた状態で、機体より【約 40m】離れ、機体の周りを移動し、どの方向からでも動作することを確認ください。 ※送信機の発信出力を下げる操作方法については、送信機の取扱説明書をお読みください。



## 安全にご使用いただくために必ずお守りください。

- はじめにお読みください。
- 2.4GHzシステムを安全にご使用頂くための基本的な注意事項
- ①2.4GHzはラジオ専用の周波数ではありません。この周波数帯は電子レンジ、無線LAN、デジタルコードレス電話、オーディオ・ゲーム機や携帯電話のBluetooth、VICSなど近距離通信に利用されるISM(産業・科学・医療)バンドと共用されているため、都市部では2.4GHzシステムの操縦レスポンスが低下する可能性があります。また、アマチュア無線、移動識別用機内無線にも使用されているため、これらの影響を注意して使用してください。なお、既設の無線局に有害な電波干渉を与えた場合は、速やかに電波の発射を停止し、干渉回避対策を実施してください。
- ②走行場・飛行場では、送受信機に影響を与える可能性のある機器の使用は最小限にし、事前に安全性を確認するようにしてください。また施設の管理者の指示に従ってください。
- ③同一走行場・飛行場では、同時に使用する2.4GHzプロポの台数は15台以内にしてください。同時に使用される2.4GHzプロポの台数が判るように施設の管理ボード等を利用してください。
- ④建物や鉄塔・樹木などの後ろを走行や飛行させ、電波の到達方向を遮へいすると、操縦レスポンスが低下したり操縦不能になる場合があります。常に目視で確認できる範囲で走行や飛行をしてください。
- ⑤日本国内では、電波法に基づく技術基準適合証明試験を受け、認証番号を記載した認証ラベルが外から見える場所に貼られているプロポが使用できます。ラベルを剥がしたり汚したりしないでください。
- ⑥海外からの輸入品等の場合で、上記認証ラベルが貼られていないプロポの使用は電波法違反になり罰せられることがあります。
- ⑦(財)日本ラジコン電波安全協会は、ラジコン運用を安全に行うための啓発を行っています。同協会の名称の入った認証ラベルが貼られているプロポをご使用ください。

使用者もしくは第三者への危害・財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを次のように表示します。

<b>⚠ 危険</b>	この表示欄の内容は、「使用者もしくは第三者が死亡または重症を負う危険が切迫して生じることが想定されます。」	お守りいただく内容を、下記の表示で区分し説明します。
<b>⚠ 警告</b>	この表示欄の内容は、「使用者もしくは第三者が死亡または重症を負う可能性が生じることが想定されます。」	
<b>⚠ 注意</b>	この表示欄の内容は、「使用者もしくは第三者が傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定されます。」	

## イーザーバインドシステムについて

【イーザーバインドシステム】はバインドプラグを使用せず、バインドを設定することのできる、パークフライト用受信機専用のシステムです。

### バインド完了後、先に受信機の電源を投入した場合

一度バインドが完了した送受信機で、受信機の電源を先に投入した場合、[3秒]でバインド待機状態となります。バインド待機は[5秒]で終了します。  
※バインドした送信機の電源を入れた場合は、そのまま通信を開始します。  
※送信機のモデルを変更した場合、通信はできません。再度バインド設定を行ってください。

### ⚠ バインド完了後は必ず【送信機】から電源を入れる。

イーザーバインド機能によるバインド待機状態時、近くで他の送信機がバインド設定をした場合、バインド情報が上書きされる場合があり大変危険です。必ず送信機から電源を入れるように心がけてください。

### ⚠ バインド後は必ずフェイルセーフを設定してください。

バインド後は送信機のフェイルセーフ機能を使って、フェイルセーフを設定し、フェイルセーフが正しく動作することをご確認ください。

## ⚠ 危険

- ⊘ 操縦不能となり危険です。  
雨の日の飛行は、送受信機内部に水が入り誤動作の原因となりますのでおやめください。
- ⊘ 発熱、発火、感電性我をすることがあります。  
分解、改造をしないでください。
- ⊘ エンジンやモーター(電動機の場合)が不意に高回転となり危険です。  
電源スイッチをオンにする時は送信機のスロットルスティックを最スロー(エンジン、モーターの回転が最低回転の位置)にし、送信機の電源スイッチ、次に受信機の電源スイッチの順にオンにしてください。また、電源をオフにする時は逆に送受信機、送信機の順にオフにしてください。
- ⊘ 怪我をする場合があります。  
エンジン(モーター)調整は必ず後ろから動作中の動力に細心の注意をはらって行うようにして下さい。送信機のスロットルレバーでエンジンをかけることは危険です。おやめください。

## ⚠ 警告

- ⊘ 故障の原因となります。  
他社製品(サーボ、ジャイロ等)を組み合わせ使用しないでください。
- ⊘ 誤動作の原因となります。  
送受信機は、精密な電子機器です。強い衝撃を与えたり、投げつけたりしないでください。
- ⊘ 操縦不能となる可能性が有り危険です。  
飛行中動きが鈍いと感じたらすぐ着陸してバッテリー残量をサーボ等の点検を行ってください。
- ⊘ 以下の場所での飛行は操縦不能や事故の可能性があり危険です。おやめ下さい。  
・トランシーバー妨害のある時。 ・車やオートバイの走っている付近。  
・高圧線、ビル、土手の近く、山間部等。 ・民家や建物付近、及び人の近く。  
・FMやTV放送局、船舶無線等の無線設備の近く。
- ⊘ 突然、誤動作を起こす可能性が有り危険です。  
受信機、サーボ等が水没し完全に乾燥後、正常に動作する場合、サーボの調子が悪くなり、あとで正常な状態に復帰した場合でも、そのまま使用せず、弊社へ点検依頼をしてください。

## ⚠ 注意

- ⊘ 飛行前に安全のために次のような点検を行って下さい。  
● 送受信機のバッテリー残量はあるか。  
● 燃料タンクの燃料漏れにより受信機やサーボ等に燃料がかかってないか。また、燃料が入っていないか。  
● 機体の振動/イースの原因となる、リンケージ類が機体や胴体に当たったりしていないか。さらに、機体を固定した状態でエンジン(モーター)をハイにして、各機を動かし完全に動作するかどうか確認して振動テストを行って下さい。初飛行は距離を離さず、安全な場所を選び上空を数分テストフライトして異常の無いことを確認して下さい。

## テレメトリーシステムについて

本製品には予めテレメトリーシステム(双方通信システム)が搭載され、受信機バッテリーの電圧情報を送信機に向けて発信しております。また、別売のセンサーを追加することで、温度・回転数などの情報も通信可能となります。  
なお、表示できる情報は送信機によって変わります。センサー増設の際は、必ず送信機の機能をお確かめください。

## 故障かなと思ったら。

### バインドがうまくいかない場合

- ・送受信機のバッテリー残量は十分ありますか。
- ・送信機と受信機の距離が近づきすぎていませんか。
- ・金属製の机や台の上では、バインドできない場合があります。

### 動作しなくなった場合

- ・送受信機のバッテリー残量は十分ありますか。
- ・送信機のモデルが変更されていませんか。

■修理アフターサービスに関するお問合せ  
【RC DEPOT ラジオサービスセンター】 TEL : 04-7157-0159  
発売元: 小西模型株式会社 (RC DEPOT)  
〒270-0239 千葉県野田市泉1-3-17  
TEL: 04-7197-2948 FAX: 04-7127-8010

# JR PROPO

PROFESSIONAL RADIO CONTROL SYSTEM

## RG411BL

DMSS2.4GHz RECEIVER SYSTEM  
with TELEMETORY & XBus

Designed for Park Flight

### Operation Manual

Thank you for purchasing JR product.

To allow correct and safe use of this product, be certain to read this operation manual.

\*Note that DMSS system are not compatible with DSM-2 nor DSM-J systems.

#### Features

- DMSS system is not interfered by cross modulation nor intermodulation.
- A telemetry system is capable of feeding back information such as the aircraft remaining battery power.
- It is possible to confirm the receiving condition by status LED.
- Support is provided for the fail safe settings in the transmitter.
- EZ BIND System is integrated (no binding plug is needed).

#### Configuration

- RG411BL Receiver Main Unit ● Operation Manual (This document)

#### Receiver Specs

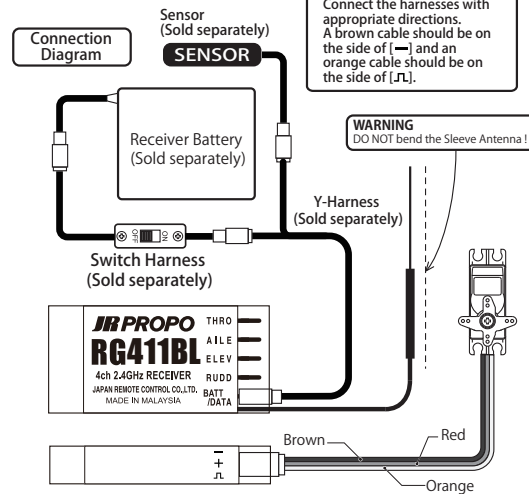
Product Number: RG411BL  
Receiving System: DMSS system  
Weight: 4.3g  
Dimensions: 35.5×18×9mm  
Rated Voltage: 4.8V  
Operating Voltage: 4.5-8.5V  
Remarks: Sleeve Antenna

#### Sensor Connections

For connecting the sensor, connect the Y-Harness (sold separately) to the [BIND/BATT/SENS] terminal. \* It will not be necessary to carry out binding for the sensor.

#### About Harness Connections

Connect the harnesses with appropriate directions. A brown cable should be on the side of [—] and an orange cable should be on the side of [L].



### To allow safe use, be certain to observe the following points.

#### ■ Please Read Before Use

#### ● Basic Precautions for Safe Use of the 2.4GHz System

- (1) The 2.4GHz band is not a frequency exclusively for use with RC airplanes. This frequency band is in common use with the ISM (industry, science, and medical care) band which is widely used for short-distance transmissions such as microwave ovens, wireless LAN, digital cordless phones, audio, gaming devices, cell phone Bluetooth. Therefore, the response of the 2.4GHz system may be reduced in urban areas. Further, as it also is used for ham and local area radio communication for mobile identification, please pay attention to the possible influences from these. In the event of any adverse radio wave interference on an existing wireless station, immediately stop emitting radio waves and take the interference avoidance measures.
- (2) At race tracks and airfields, minimize the use of devices that can affect the transmitter/receiver and be sure to confirm the safety beforehand. Also, always follow the instructions of the facility staff.
- (3) If an aircraft is allowed to pass behind a building, pylon, trees, etc. the radio-wave range is blocked, the response may drop, even result in losing control. Always let aircraft run or fly within a range that you can visually observe.

In order to protect against injury to users or third parties, or damage to property, points that must certainly be observed are shown below.

#### Information

This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions: (1) this device may not cause harmful interference, and (2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Warning: Changes or modifications to this unit not expressly approved by the party responsible for compliance could void the user's authority to operate the equipment.

NOTE: This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications.

However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

1. Reorient or relocate the receiving antenna.
2. Increase the separation between the equipment and receiver.
3. Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
4. Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

This device complies with Industry Canada Licence-exempt RSS-210. Operation is subject to the following two conditions: (1) this device may not cause interference, and (2) this device must accept any interference, including interference that may cause undesired operation of the device.

### ! DANGER!

Not following this advice carries high risk of death or serious injury to the user or third parties.

- Do not use this product in the rain as water may cause electronic devices to malfunction.
- This product carries a risk of injury due to heat, fire, and electric shock.
- Never disassemble or modify this product.
- When turning on the receiver, the engine (or motor) can start rotating at high speed, causing injury.
- Before turning on, always set the transmitter throttle stick to the lowest speed position. Turn on the transmitter first then the receiver.

To shut down, switch off the receiver first and then the transmitter.

### ! WARNING!

Not following this advice may result in death or serious injury to the user or third parties.

- Do not use this receiver in combination with other manufacturers' products such as servos, gyros etc.
- Never allow the receiver to receive a strong impact as the electronic components in the receiver are susceptible to damage.
- If degraded servo movement is detected, stop operating immediately. Identify the source of the problem before further operation (check battery voltage, etc.).
- Do not use the product in the following locations, as there will be a risk of an out-of-control condition or accident:
  - Where interference exists.
  - Near high-tension electric lines, buildings, or in mountainous areas, etc.
  - Near houses or people.
  - Near radio or TV transmitters.
- If the receiver becomes submerged in water, it may appear to operate normally after being fully dried. However, it may malfunction at a later time. Do not continue to use the product - contact your JR distributor to arrange an inspection.

### ! CAUTION!

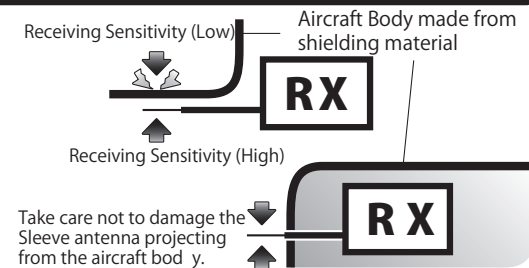
Not following this advice may cause injury to the user or third party (or cause damage to property).

- Is there enough battery voltage for both the transmitter and receiver?
- Is there any fuel spillage on the receiver, servos, etc. that was caused by leakage from the fuel tank? Is there enough fuel?
- Check that no linkage interferes with the aircraft body. Conduct a vibration test by restraining the model and setting the engine (or motor) to full power whilst keeping your hands well clear of the propeller. Check that each control surface moves correctly. For the initial flights of a new model always fly in a safe place, avoid flying at great distance, and keep the model close to the landing area for several minutes until you are fully confident that the receiver is operating correctly.

■ If you have further questions, please contact your local dealer or JR distributor in your country.

## 2.4GHz Band Characteristics and Receiving Radio Wave

In the situation where the antenna has been attached directly to a shielding material such as carbon or metal, the receiving sensitivity of the installed antenna surface will be considerably reduced. When the antenna is to be installed on this kind of shielding material itself, either separate the antenna as far as possible from the material, or in the case where the radio wave shielding material is the aircraft body itself project the antenna outside the aircraft body.



## EZ BIND System

[EZ BIND System] is a unique system designed for the receiver of the Park Flight. With the EZ BIND System, binding can be carried out without using a binding plug.

If, after completion of binding, the receiver is turned on first...

- After completing a binding operation of the transmitter and receiver, turning on the receiver first will lead it to Binding Standby Condition in [three seconds]. The Binding Standby Condition will last for [five seconds].
- \*Turning on the transmitter first will start normal transmission operation.
- \*If you have changed your receiver model. Please carry out another binding to establish new communication.

#### ! Make sure to turn on the [transmitter] first after completion of the binding

While your receiver is on Binding Standby Condition based on the EZ BIND function, if another transmitter located nearby starts a binding operation, binding information of your receiver could be overwritten. To avoid such a significant risk, make sure to turn on your transmission first.

#### ! Make sure to set fail safe after completion of the binding

After binding is completed, make sure to set fail safe using the Fail Safe function on the transmitter, and check to see if the fail safe works properly.

## Telemetry System

The Telemetry System (bi-directional communication system) is pre-installed on RG411B, and voltage information of a receiver battery is transmitted to the transmitter. By adding a sensor which is optionally provided, other information including temperature and rotational speed can be communicated. Such information that can be displayed differs depending on a type of transmitter you use. Before installing an additional sensor, check functions of your transmitter.

## Troubleshooting

When the binding does not complete successfully, check the following points.

- Is the remaining battery power of the transmitter and receiver adequate?
- Is the distance between the transmitter and receiver too close?
- When the procedure is carried out on the top of a desk or bench that is made from metal, binding may not be successful.

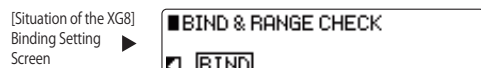
When the receiver does not operate, check the following points.

- Is the remaining battery power of the transmitter and receiver adequate?
- Has your receiver model been changed?

## Binding Method

■ In order to establish communications with the transmitter, binding (pairing) must certainly be carried out. In this section, an explanation is given of the binding.

- 1 Display the [BIND] Setting Screen in the transmitter System Setting Mode. \* The figure below shows the XG8 screenshot.



- 2 Next, match the cursor [▶] to "BIND" displayed on the Binding Setting Screen of the transmitter and press the dial. Following diagram shows display on XG8.

- 3 Turn the receiver ON while the transmitter is on the status of the step 2. After a few seconds, the binding will start and the LED begins to flash. When the LED stops blinking, the binding operation has been completed.

- 4 Operate the servo and confirm that the binding have been successfully completed. Note that when carrying out a range test, after setting the transmitter to the reduced power output condition, maintain a distance of approximately 40 m from the aircraft and move around it to confirm that operation can be carried out from all directions. \* To reduce the transmitter power output, please read the transmitter operation manual.

